

1 学校経営の基本構想

(1) 学校経営の基本や基盤

- ア 日本国憲法、教育基本法、学校教育法をはじめとする教育関係法規、並びに教育課程の規準である学習指導要領を基盤とし、福岡県教育施策実施計画及び古賀市教育大綱、古賀市教育行政の目標と主要課題に則り、生徒や保護者、地域及び学校の実態に即して教育を行う。
- イ 中立性を確保し、公共性、公益性を目指して生徒の学習する権利を保障し、その実態を保護者や地域に公開することを原則とする。
- ウ 福岡県人権教育啓発基本指針、学校教育における在日外国人の人権に関する指導上の指針、古賀市人権施策基本方針に基づいて人権教育を推進する。

(2) 学校の教育目標

『ふるさと古賀を愛し、豊かな心と知性を持ち、自ら生きる力を培うことができる生徒の育成』

○ふるさと古賀を愛しとは

ふるさと古賀のよさを学び、愛情と誇りを抱き、地域と豊かに関わる喜びを味わい、国際社会を生きていく基盤となる共生する生き方を追求すること。

○豊かな心と知性を持ちとは

人との関わりの中で思いやりや感謝の心を持ち、他者とのコミュニケーションから自己肯定感を育み、他者への畏敬の心を育むこと。

○自ら生きる力を培うとは

夢をもって、自ら学習する価値を見だし、様々な困難を自ら解決していく強い意志と新たな創造力をもつこと。

(3) 具体目標

ア 目指す生徒像

- ① 自ら課題をみつけ、よりよい方法で課題を解決できる生徒 <自主>
- ② 自他の人権と互いのよさを認め合い、ともに高め合う生徒 <協同>
- ③ 自分の将来に展望をもち、自己実現に向けて努力する生徒 <創造>

イ 目指す学校像

- ① 意欲的に学習活動が展開され、明るく活力あふれる学校
- ② 一人ひとりの生徒が大切にされ、確かな学力を育む学校
- ③ 「ふるさと古賀の学校」として、学校・地域・家庭が人づくり・つながりづくり・地域づくりを協働する WinWin の関係の中で、学校課題や地域・家庭の課題を解決して信頼される学校

ウ 目指す教師像

- ① 子どもに愛情をもって寄り添う優しさと厳しさのある教師
- ② 保護者の願いに寄り添い、高いコンプライアンス意識をもって信頼をうけることができる教師
- ③ 地域と協働して古賀市の将来を担う人財を大切に育む教師

エ 目指す授業像

- ① 「わかる・できる」が実感できる授業
- ② 自分と他者の意見を大切にできる授業
- ③ 特別支援教育の視点の個に応じた授業

オ 期待する保護者像

- ① 基本的な生活習慣や規範意識の定着に努める保護者
- ② 感謝や尊敬の心、人権尊重の大切さを教える保護者
- ③ 学校に理解を示し、学校と協働で子育てする保護者

カ 期待する地域像

- ① 保護者の子育てを応援する地域
- ② 防犯・防災・安全に努める地域
- ③ 学校の教育活動と地域活動を協働する地域

(4) 本校の教育課題と経営課題

ア 教育課題

- ① 自尊感情と社会力（人と人がつながり、社会をつくっていく力）の醸成
- ② 学ぶ意欲の向上

イ 経営課題

- ① 協働体制による学年経営の推進
- ② 自ら学ぶ意欲を高める教育課程経営の充実

(5) 経営の基本方針

- ア 家庭・地域と協働してふるさと古賀の将来を担う子どもを育成する学校経営に努める。
- イ 学校の教育目標を具現化するためにビジョンの共有化を図り、社会に開かれた教育課程を推進し、「ふるさと古賀の学校」づくりに努める。
- ウ PDCAサイクルを迅速かつ効果的に活用して改善と協働意識の向上を図るために、機を逃さない主幹、主任・主事等を中核としたOJTと「立ち話」ミーティングに努める。
- エ 生徒指導の3つの機能「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」を根底に据えた教育課程を編成し、自ら生きる力を培う教育活動に努める。
- オ 人権教育の視点に立った授業づくり、人間関係づくり、環境づくりを行い、すべての生徒の学力と進路の保障に努める。

2 本年度の経営の重点

(1) 本年度の重点目標 『 自他を大切にできる心をもった生徒の育成 』

人工知能（AI）が進化し、社会全体の生産性を押し上げ、人間が人工知能に取って代わられる時代が到来している。この時代を生き抜いていく子ども達に必要なものは、人が本来持っている感性を働かせながら考え出すことができる力である。その力は、他者と協働しながら、自分に自信をもち、人と関わり、相手の気持ちを察する日々のきめ細かな実践で培われるものだと考える。

そこで、市費による少人数学級対応講師・特別支援教育支援員・心の教室相談員・学習支援アシスタント等の人的配置と児童生徒支援担当1名、指導方法工夫改善教員2名の県費加配を有効活用し、少人数指導等のきめ細かな関わりに取り組んでいく。

また、「立ち話」ミーティングの充実を図り、会議時間を減らし、教職員が生徒に付く時間を確保し、きめ細かな関わりが充実できるようにする。

さらに、「ふるさと古賀の学校」として、地域と協働した行事を企画するとともに、強い小中連携を図り、9カ年の連携教育の推進を目指す。併せて通常学級において特別支援教育の視点に立った学習を推進し、個に応じた学習環境を整えて、人を大切にできる人権感覚を磨き、自他を大切にできる心をもった生徒の育成を本年度の重点目標とする。

(2) 重点目標達成のための方策

ア 教育活動の充実

- ① 社会に開かれた教育課程を推進し、「ふるさと古賀の学校」としての特色化を図る。
- ② 自尊感情をくすぐる声かけや研ぎ澄まされた発問で生徒の学習意欲を喚起し、確かな学力の定着を図る授業改善に努める。
- ③ 指導の個別化と生徒自らの学習の個性化などの個に応じた支援を充実させるために、GIGAスクールパソコンや電子黒板などのICT環境を積極的に活用した授業等を行う。
- ④ 生徒の学びを深め、発展させるために、専門的な外部の組織や講師を積極的に活用する。

イ 組織運営の充実

- ① 機を逃さず行う「立ち話」ミーティングで小さなマネジメントサイクルを迅速に機能させ、会議時間を大幅に縮減し、生徒に付く時間の確保に努めるとともに、市費少人数学級対応講師、県費加配児童生徒支援担当や指導方法工夫改善教員等を活用し、きめ細かな指導体制の充実を図る。
- ② 授業評価・学校経営評価・校務分掌評価・学校評価（自己評価）及び学校関係者評価を行い、D-C-A-Pの充実に努める。

ウ 内外環境の充実

- ① 誰もが落ち着いて学べる特別支援教育の視点に立った学習環境づくりに努める。
- ② 市による人的配置を有効活用し、成果を広報する。
- ③ GIGAスクールパソコンを活用し、1人の生徒も取り残さず全ての生徒へ学習機会を提供する。

エ 人権教育の充実

- ① 人権尊重を中心に据えた、学年・学級づくり、学習環境づくり・言語環境づくりに努める。
- ② 人権教育副読本「かがやき」「あおぞら」「ひかり」の積極的な活用とタイムリーな人権課題を積極的に取り上げ、人権学習の充実に努める。

オ 特別支援教育の充実

- ① 通常学級において特別支援教育の視点に立った授業づくりを推進し、特別な教育的支援が必要な生徒への対応に取り組むと共にすべての生徒へのきめ細かな指導に努める。
- ② 特別支援学級及び通級指導教室に在籍する生徒一人ひとりの障害を正しく把握し、明らかになった教育的ニーズに対応できる教育課程を編成し、実施する。

カ キャリア教育の充実

- ① 生徒の発達段階を踏まえ、キャリア教育と教科学習とのカリキュラムマネジメントにより3カ年計画を策定するとともに、キャリアパスポートを作成し、自己理解を深めさせながら「生き方」指導の充実を図る。
- ② 日常の教育活動とドリームステージなどの体験活動や、様々な職業の方から直接学ぶ機会等を通して目的意識をもって主体的に進路選択ができる教育の充実に努める。

キ 特別活動の充実

- ① 自分の意見を発表し、違う意見を聴き入れる話し合い活動の充実に努める。
- ② 生活集団としての円滑な関係を築き、学習集団としての資質の向上に努める。

ク 図書館教育の充実

- ① 主体的・意欲的な読書活動や学習活動の推進及びリーディング・リーダーの活用に努める。
- ② 地域に開放し、学校の図書館機能を小さな拠点とすることで、「ふるさと古賀の学校」としての役割を果たす。

ケ 強い小中連携の充実

- ① 古賀中学校区連絡協議会を通して、小学校との交流・連携、情報の共有化を図る。
- ② 校区内の小中で学習指導・生徒指導の方針を統一し、小中で9カ年連携した教育活動をすすめる。

コ 教育課程外の活動の充実

- ① 積極的生徒指導の一貫として、清掃指導・部活動指導・登下校指導・挨拶指導・給食指導等に取り組み、自他を大切にすることを育む活動の場とする。
- ② 市が取り組む駅伝等スポーツ行事、健康・福祉・清掃行事等に積極的に受け入れや参加を促し、「ふるさと古賀の学校」づくりを推進する。

サ 働き方改革と不祥事防止の取組

- ① 部活動の休部日や活動時間等の古賀市の規程を遵守し、部活動顧問及び生徒の負担を軽減し、ストレスを軽減する。
- ② スクールコンプライアンスの日を設定し、職員研修の実施や不祥事防止のためのチェックリストやAUDITを実施する。また、自己評価面談時の管理職ヒアリングを実施し、法令遵守意識を高める。

<古賀プラン2021の取組の具体実践>

- PTCAを母体としたコミュニティ・スクールでの地域・学校双方向の応援活動
- 心をこめて清掃する黙働掃除
- 気持ちが伝わる笑顔の挨拶

<本年度行動化されためざす生徒の姿>

～褒め愛 許し愛 認め愛～

- 褒め合い（褒め愛）・・・人の違いを理解し、よさを褒め合う生徒の姿
達成数値目標 生活状況調査項目
「相手意識をもって、心のこもった挨拶ができる」80%以上
- 許し合い（許し愛）・・・自他を大切にし、相手の立場を尊重して許し合う生徒の姿
達成数値目標 生活状況調査項目
「いじめはどんな理由があろうと絶対に許せない行為である」90%以上
- 認め合い（認め愛）・・・自ら進んで学び、お互いを認め合う生徒の姿
達成数値目標 生活状況調査項目
「友達の前で自分の意見や考えを発表することができる」70%以上
「自分にはよいところがあると思う」70%以上

<褒め愛 許し愛 認め愛 を育む日常五心>

- 「有り難う」という感謝の心
- 「私がします」という奉仕の心
- 「はい」という素直な心
- 「すみません」という反省の心
- 「おかげ様」という謙虚な心

3 本年度の経営構想図

